

## 清水和音 ピアノ SHIMIZU Kazune (Piano)

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。

ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。

1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライブ録音がリリースされた。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛された。2024年10月には『清水和音の芸術』と銘打たれ、そのベートーヴェン ピアノ・ソナタ全集、ソニーミュージック時代、RCA時代の全てのCDが再リリースされている。

2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とバガニニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間は年2回のリサイタル・シリーズ『清水和音 ピアノ主義』を開催。幅広いレパートリーで聴衆を魅了した。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、ブラームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熱演。同年4月からは、年6回の室内楽シリーズ『芸術ランチコンサート』を開始。デビュー40周年となった2021年秋には『清水和音 ピアノの祭典』と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。毎年春に開催している『三大ピアノ協奏曲の響宴』では、ベートーヴェン『皇帝』、チャイコフスキー第1番そしてラフマニノフ第2番の3曲を一気に披露するなど、精力的な活動を続けている。桐朋学園大学・大学院 教授。



© Tomoko Hidaki

## 渡邊一正

指揮

WATANABE Kazumasa (Conductor)

1991年東京フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。2015年4月から東京フィルのレジデント・コンダクターおよび指揮者を2021年5月まで務める。また1995年～2002年には広島交響楽団正指揮者も歴任。これまでN響の定期演奏会を始め、日本国内の主要プロ・オーケストラへ定期的に客演し、その音楽性と指揮に対する信任を得ている。オペラでは新国立劇場でマスカニニ歌劇『友人フリッツ』、バレエでも同劇場バレエ団『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』などを指揮し、2006年『白鳥の湖』新演出の指揮でも大成功を収めた。またサンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、海外でも活躍している。ピアニストとしても8歳の時に東京交響楽団、東京フィルと協演。87年～89年まで渡欧しハンス・ライグラフ教授に師事。その後、東京フィル定期、広島響定期などで弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も高く評価されている。



© Yuji Hori

## 東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の『楽しいオーケストラ』を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的に参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる自主公演、定期公演は東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン『第九』は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタベ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル『ラ・ラ・ランド』6回公演、11月オーチャードホールで『BBC PROMS』に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて『第九』公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月『ホセ・カレーラス&ブラジロ・ドミンゴ』コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

